《様式１》

【対象事業活動の実績に関する評価】

令和3年度　事業経営評価

団体名	（公財）大阪国際平和センター	所管所属名	教育委員会事務局

中期目標

⑴ 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容

特定の歴史観や考え方に偏らず中立的(中立性の確保)に、事業を実施していくこととともに、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示を行い、もって大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育むこと。

⑵ 中期目標期間

令和２年４月１日から令和７年３月31日までの５年間

⑶ 中期目標の期間終了時において、⑴の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態

中期目標期間、大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会が提供されている状態。

当該事業年度の評価

外郭団体の自己評価

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価

令和３年度は、新型コロナウィルス感染症の拡大に伴う３度の緊急事態宣言が発令され、４月下旬からは約２か月の臨時休館を余儀なくされるなど、前年度に引き続いて社会を取り巻く情勢に館の運営が大きく左右される年度となった。大阪市立の小中学校の来館は、宣言解除となった10月以降は校外学習も本格的に再開され、前年を上回る来館があった。このような状況のもと様々な制限がある中でも、当館の開館30周年にあたる節目の年度にふさわしい企画事業等の実施や、刻の庭の銘板更新などにも取り組むとともに、施設の快適性の確保、教員等の平和・人権研修等の積極的な誘致などにも取り組んだことにより、年度目標は達成できたと評価している。

最終目標達成見込み	最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について
ア ア：順調 イ：遅れあり ウ：計画の見直し必要	新型コロナウィルス感染症の変異株の流行など現時点では不確定要素も大きく、令和４年度の来館状況を見通すことに困難な面はあるが、引き続き、財団の自主努力で達成可能な学校関係のPRや来館した大阪市立の小学校に対するアンケート等により把握した平和学習到達度（学校満足度）向上のための取り組み等を行っていく。

市の評価

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた１年であった。しかしながら、開館30周年（太平洋戦争開戦80年）の節目の年ということもあり、多彩な平和祈念事業や特別展を実施することにより、すべての年度目標を達成し、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会を提供することに大きく貢献したことは評価できる。

助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第７条第５項】（※必要な場合のみ）

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－1　（※分野ごとの評価）

中期計画

団体が**中期計画期間中**に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

大阪市小学校長会や中学校長会等において、平和学習の場としてピースおおさかの利用を呼びかけるとともに、来館率の低い区の小学校長会などに働きかけを行っていくことにより、小中学校の来館率を高めていく。

年度計画達成状況

【計画】団体が**当該事業年度**に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
最も来館者数の多い区分である小中学生の来館をさらに促進するため、小中学校校長会などの学校関係者の会議等においてPRを行い、来館率を向上させる。 また、教員等を対象とした平和・人権に関する研修会を誘致することで、当館の知名度を高め、小中学校の来館につなげていく。	小中学校の校長会など合計25回、学校関係者に「ピースおおさか」のＰＲを行い、来館誘致に努めた。 また、将来的な小中学校の来館につながる延べ５日間の教員初任者研修等を誘致した。

指標Ⅰ　大阪市立小学校全校に対する来館率

	R2(4月～12月)	R3(1月～12月)	R4(1月～12月)	R5(1月～12月)	R6（1月～12月)	R7(1月～3月)【最終】
目標値	18%	31%	85%	85%	85%	85%
実績値	28.5%	45.5%				

当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：（ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった

指標Ⅱ　大阪市立中学校全校に対する来館率

	R2(4月～12月)	R3(1月～12月)	R4(1月～12月)	R5(1月～12月)	R6（1月～12月)	R7(1月～3月)【最終】
目標値	4%	15%	25%	25%	25%	25%
実績値	10.8%	20.8%				

当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：（ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」

当該事業年度の達成状況について

大阪市立の小中学校の来館は、宣言解除となった10月以降は校外学習も本格的に再開され前年を上回る来館があり、大阪市立小学校の来館校数は130校、来館率は45.5%、大阪市立中学校の来館校数は27校、来館率は20.8%となった。学校のカリュキュラムの調整が難しい中にあっても、校外学習の自粛の制約がない時期には積極的な来館があり、目標を超える来館率を達成することができた。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

今年度やむを得ず来館を取りやめた学校にも次年度以降に来館してもらえるよう、引き続きＰＲの場を積極的に活用し来館率の向上を図っていく。

市の審査

中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す

「外郭団体の自己評価」に対する審査結果

新型コロナウイルス感染症の影響が依然として残る中、小中学校の校長会などへのＰＲ、教員等の研修会を誘致することなどにより、目標を達成することができたため、評価はおおむね妥当である。

「**中期目標**」達成の視点からみた審査結果

新型コロナウイルス感染症の影響により校外学習が依然として行われにくい状況の中、中期目標で設定した大阪市立小学校全校に対する来館率31%以上、大阪市立中学校全校に対する来館率15%以上を達成した。小中学校へのPRなどをさらに強化し、次年度の目標達成を図られたい。

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－２　（※分野ごとの評価）

中期計画

団体が**中期計画期間中**に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

来館した大阪市立の小学校に対してアンケート調査を実施し、「ピースおおさかが平和学習の場として役立ったのか」という問いに対して、４段階中最上位の「役立った」と回答した割合85%を計画期間中維持するように努める。

年度計画達成状況

【計画】団体が**当該事業年度**に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」常設展示や特別展示の開催等を通じて、平和学習としての効果・満足度を高める。また、併せて施設・設備の改修等により見学時の快適性を図る。	常設展示や特別展示の実施、定時映画の上映、ワークシートの提供を通じて、平和学習としての効果・満足度を高めるための環境づくりに努めた。 また、コロナ禍で広島、長崎へ修学旅行に行けなかった学校の当館での平和セレモニー等の実施にも協力した。施設・設備の改修にも努め、寄贈要望の多い折鶴展示スペースを増設した。

指標Ⅰ　来館した大阪市立小学校の平和学習到達度

	R2(4月～12月)	R3(1月～12月)	R4(1月～12月)	R5(1月～12月)	R6（1月～12月)	R7(1月～3月)【最終】
目標値	85%	85%	85%	85%	85%	85%
実績値	88.9%	93.5%				

当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：（ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」

当該事業年度の達成状況について

コロナ禍において混雑なく見学や映画鑑賞し、ワークシート等を通じて学習できる環境を提供することが重要と考え、予約段階から混雑時期の入館曜日や時間の調整を行った。また、児童・生徒の関心の高い特別展（天王寺動物園と連携した「どうぶつのいのちとへいわ」）を開催するなどして学校のニーズにも対応したことで、93.5%の学校から「平和学習の場として役立った」との回答があった。その他トイレ改修や折鶴展示台の増設など施設面での改善にも努め、平和学習の効果・満足度を高める取り組みが評価された結果、昨年度より高い平和学習到達度（＝学校満足度）になったと認識している。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

次年度以降も、一定程度の予約や定時映画の人数制限を行う必要があると想定されるが、アンケートにより学校のニーズを把握し、対応可能な事項は改善を図り、平和学習の効果や満足度を高めていく。

市の審査

中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す

「外郭団体の自己評価」に対する審査結果

新型コロナウイルス感染症の影響があったが、学習環境の整備、開館30周年を記念する特別展の実施などにより、目標を達成することができたため、自己評価は妥当と考える。

「**中期目標**」達成の視点からみた審査結果

新型コロナウイルス感染症の影響により、団体予約の受付時に入館曜日や時間の調整を行ったため、学習環境の改善が図られ、目標値よりも高い平和学習到達度があった。また、設備の改修を行うとともに、児童・生徒の関心の高い特別展を実施したことも目標の達成に寄与したと考えられる。次年度も目標達成ができるように小中学生のニーズの把握に努められたい。

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－３　（※分野ごとの評価）

中期計画

団体が**中期計画期間中**に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

ピースおおさかの企画事業の参加者に対しアンケート調査を実施し、「今回参加していかがでしたか」という問いに対し、５段階中上位２つの「とてもよかった」「よかった」と回答した割合75%を計画期間中維持するよう努めていく。

年度計画達成状況

【計画】団体が**当該事業年度**に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
開館30周年にあたる節目の年であり、次の世代に戦争の悲惨さと平和の大切さを継承していくため、魅力ある企画事業等を実施し、その情報発信に努めていく。	次の世代に戦争の悲惨さと平和の大切さを継承していくため、様々な制限がある中でも魅力ある平和祈念事業を４回実施し、その情報発信に努めた。

指標Ⅰ	来館者満足度					
	R2(4月～12月)	R3(1月～12月)	R4(1月～12月)	R5(1月～12月)	R6（1月～12月)	R7(1月～3月)【最終】
目標値	75%	75%	75%	75%	75%	75%
実績値	81.2%	92.7%				

当該年度の目標達成状況	a(i)	《達成状況》 a：目標達成：（ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」

当該事業年度の達成状況について

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、３月、８月、９月、12月にいずれも募集人数を制限して４回実施した。特に、９月には当館の開館30周年記念事業として大阪空襲死没者の刻の庭銘板追加記念式典と当館の30年の歩みについての講演会を、12月には開戦80年の祈念事業として平和寄席を実施した。戦争の悲惨さ、平和の尊さを実感するなど、アンケートでは「とてもよかった」「よかった」と回答した人の割合が92.7%と概ね高評価を受けた。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

平和祈念事業は寄附金（平和寄金）を財源としており、今年度は、刻の庭に銘板追加された遺族などから多くの寄附金（平和寄金）が集まった。次年度以降も,新型コロナウィルスの感染防止や人々の密を避けたいという意識変化から、適正な募集人数での平和祈念事業の開催が求められ、これら事業の趣旨を広く訴え、寄附金を有効活用しながら、なお一層魅力ある平和祈念事業の開催に努め、平和の情報発信を行っていく。

市の審査

中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式１：中期目標(3)」に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す

「外郭団体の自己評価」に対する審査結果

新型コロナウイルスの影響による事業の中止はなく、開館30周年や太平洋戦争開戦80年の事業を予定通り実施することができたため、自己評価は妥当と考える。

「**中期目標**」達成の視点からみた審査結果

今年は開館30周年、太平洋戦争開戦80年の節目の年であり、記念講演会や平和寄席、コンサートなどが計画通りに行われ、すべてのイベントで目標とした来館者満足度75%以上を達成した。来年度も今年度の成果を継承し、高い満足度のある事業を行われたい。